

令和7年度深伊沢小学校 校内研究実施計画書

I 研究主題及び教科

研究主題	人とのかかわりを大切にし、主体的に学び続けるこどもの育成
教科・領域	全教科・全領域

II 主題設定の理由

1. こどもの実態

本校は、単級校であり、幼少期からこども同士の固定化された人間関係や、新たな関係の構築が難しい実態がある。そのため、全校のこどもたちがつながりを深め、多面的な見方ができるよう毎日集団登下校を行ったり、異学年交流活動の場として縦割り班活動を取り入れたりしてきた。その結果、高学年が低学年に対し、思いやりのある行動がとれるようになってきており、低学年もそれを見習おうとする姿勢が現れてきた。

一方で、課題としては、トラブルや失敗、難しいこと等に向き合い、他者とかかわりながら主体的に解決していく力を身につけることであると考えている。また失敗や間違いに抵抗感を示し、消極的な姿を見せるこどももいる。話し合いの時間を設定しても、相手と異なる意見を言うことに臆してしまうことがある。さらに、自分と異なる価値観を許容することへの弱さも見られる。

このような実態をふまえ、学習活動において、多様な考えに触れる機会を設定し、それを受け入れながらより良い考えを導き出す経験を積ませたいと考える。また、非認知能力アンケートの「先のことを考えて計画的に行動する」では30%、「自分にとって良くないことは我慢する」では24%のこどもが否定的な回答をしていることから、自制心を養い、目標を達成しようとする力をつけさせたいと考える。

2. 昨年度の成果と課題

高学年では一昨年度に引き続き、ICT機器を有効活用した教科における探究的な学習に取り組んだ。学習課題や学び方等こどもが選択し、自己決定できる幅を広げることで、こどもたちがより主体的に学習に取り組む姿につながった。また、低学年においても、オクリンクプラスなどを活用したり、選択できる幅を調整したりすることで、こどもの実態に応じた探究的な学習に取り組むことができた。

今年度は、全学年で統一した取組にするため、活用するスプレッドシートやルーブリックなど教師間の認識をそろえ、学年に応じた取組を進めていく必要がある。また、全学年で系統立てた探究的な学習を進めていきたい。さらに、低学年から様々な場面で話型を使って話す練習を積み重ねたり、ふりかえり(◎○△)の書き方を練習したりすることで、協働的な学びを進めるための素地を養っていく必要がある。

以上1、2のことから、今年度も全ての教育活動の中で、自他ともに尊重できる仲間づくりや授業づくりを基盤に、自ら考え、人とのかかわりを大切にしながら主体的に学び続けるこどもたちを育てたいと考え、上記の主題を設定した。

Ⅲ 研究構想図

【学校教育目標】

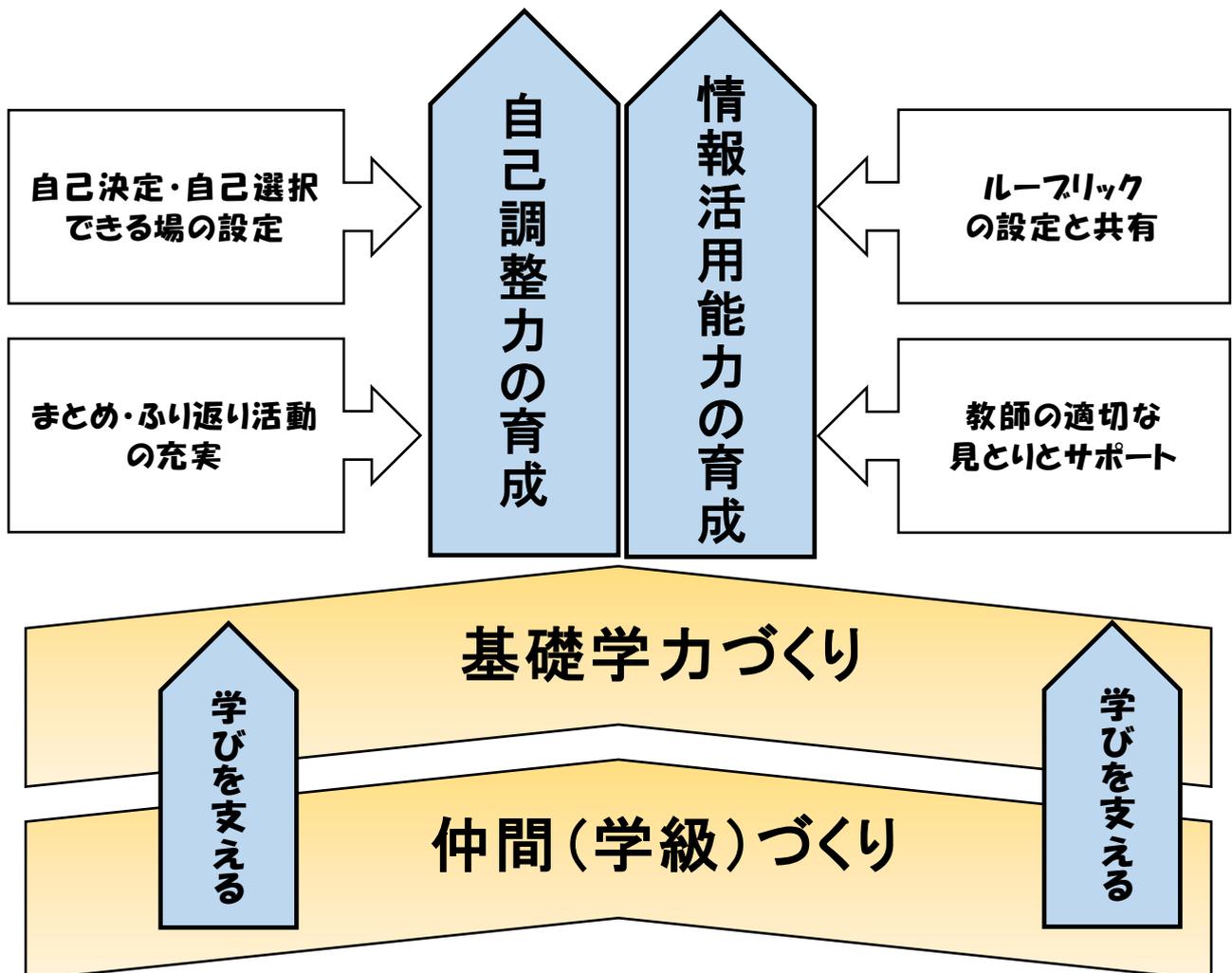
人と人とのつながりを大切にし、
豊かな心でたくましく生きるこどもの育成

【めざすこども像】

- 自分の思いや考えを持ち、進んで学ぼうとするこども 「知」
- 人と人とのつながりを大切にし、思いやりのあるこども 「徳」
- 自分や他の人の生命・健康・安全を大切にするこども 「体」

【研修主題】

人とのかかわりを大切にし、主体的に学び続けるこどもの育成



IV 研究内容及び方法

1. 自己調整力・情報活用能力の育成

今年度は「自己調整力」と「情報活用能力」の育成のために、次の4つの手立てを意識して研修を進めていく。

【自己調整力】

自己の行動と感情をコントロールできる能力、心理学用語ではメタ認知（自分を客観的にとらえる）できる能力。

学習においては、学習者が自分自身の学習活動に能動的に関わり、自らの学習を調整する能力。（＝自己調整学習）

【情報活用能力】

世の中の様々な事象を情報とその結びつきとしてとらえ、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力。情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル等に関する資質・能力等も含まれる。

(1) 【自己決定・自己選択できる場の設定】

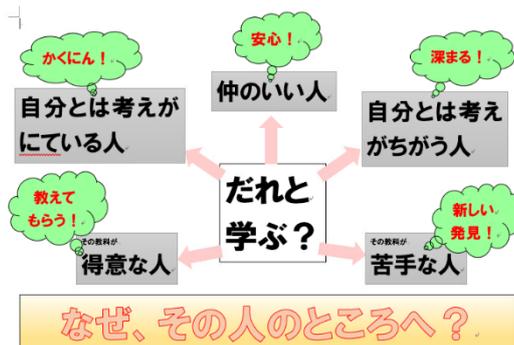
- ・その時間に何を学習するか（めあてや課題）、どうやって学習するか（使うツールやアプリ、場所や協働相手）を自分で選択し、決定する。
- ・こどもの発達段階や実態、教科や単元に応じて、こどもに委ねる内容や範囲を考え、実践していく。
- ・多様な学習形態のねらいを明確にして、学習効果を高める。

- ・自分の考えを確かにして深めるために（自信）
- ・他の考えに気づき、思考を広げるために（ヒント）
- ・みんなで考えを練り上げるために（練り上げ）
- ・考えの相違点・共通点を聞きあうことで思考を深めるために（比較）
- ・考えを出し合い協働して解決するために（協働）
- ・新たな考えを創り上げるために（新たな発想）
- ・よりよいものを選択するために（取捨選択）

- ・個別学習、ペア学習、グループ学習、一斉学習
- ・協働相手を自由選択

- ・仲のいい人（安心）
- ・自分とは考えが似ている人（確認）
- ・自分とは考えが違う人（深まる）
- ・その教科が得意な人（教えてもらう）
- ・その教科が苦手な人（新しい発見）

各教室に「だれと学ぶ？」を掲示し、こどもたちに意識づけをさせていく。



(2) 【ルーブリックの設定と共有】

- ・主体的な学びを引き出すために、基本的に3段階で設定する。
- ・子どもたちの学習の指標の1つになるので、なるべく具体的なものが良い。
- ・知識・技能や思考・判断・表現、教科における見方・考え方を意識して設定する。
- ・子どもたちが見通しをもてるように、各学年に応じて、授業の流れをクラスルームなどで提示する。

【課題】

空気は、温度によって体積が変わるのかを調べ、考えたことやわかったことを交流しよう。

【今日の評価】

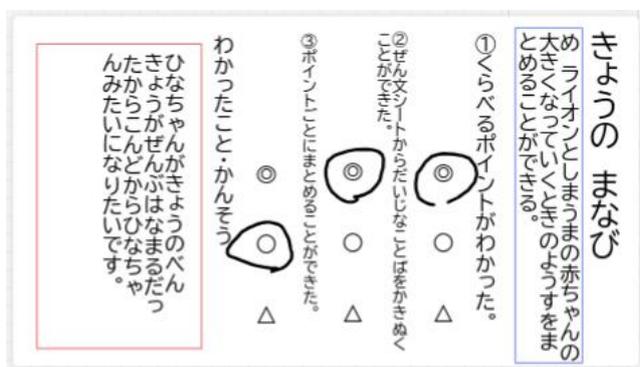
B：安全に気をつけて実験し、「結果→考察→まとめ」の流れで、スライドにまとめることができる。

A：Bを満たし、実験結果から考えられることを説明することができる。

S：Aを満たし、自分の考えやより良いまとめ方などを積極的に発信し、交流することができる。

(3) 【まとめ・ふり返し活動の充実】

- ・自己分析し、次の学習につなげていくために重要な活動であるということ意識し、子どもが自らの伸びを実感できるように、ふり返りの時間を確保する。
- ・内容知（得た知識や気づき等）と方法知（学び方）に分けて、ふり返る。
- ・各学年に応じて、自分の学びの変容を確認したり、他者参照したりするためにスプレッドシートやオクリンクプラスを使うことが有効。
- ・フィードバックし、ふり返りの質を高めていく。



(4) 【教師の適切な見取りとサポート】

- ・教師のスタンスは「主体的な学びを支援する伴走者」
- ・子どもの能力や進捗状況等を把握し、適切なサポートを行う。
- ・子どもたちだけでは到達できないことがある場合は、教師が積極的に直接的な指導や支援を行っていく。

2. 学びを支える基礎学力づくり

- ・モジュール学習として、読書や読解力（読む・書く、よむ YOMU ワークシート）、書く活動（作文）などを、各学年に応じて取り組み、基礎学力の定着をはかる。
- ・週末の宿題として、ドリルパークを活用し、既習事項の反復練習を行う。
- ・学期に1回の学習ボランティアを活用したプリント学習
- ・家庭学習強化週間の取組
- ・高学年における、家庭学習の計画と実践、ふり返り
- ・全国学力・学習状況調査や、みえスタディ・チェックの実施

3. 学びを支える仲間（学級）づくり

一人ひとりの居場所があり、こどもたちが安心して自分を出せる学級・学校づくりが本研修を進めていくにあたって大変重要になってくる。そこで、こどもとこどものつながりを深める「仲間づくり」を進めるために、まずは教師とこどもがつながっていく。教師がこどもの思いや願いに寄り添い、いかに共感できるかが鍵となり、教師の人権感覚が問われるところである。各学級では、「見つめる子」を設定し、その子を中心とした仲間づくりを進めていく。

また、分からないことを「わからない」と言えるこどもやちがいを大切にできるこどもを育て、それを臆せず言える関係をつくりたい。こども同士が協働して学んでいくには、仲間の言葉にきちんと寄り添い、最後まで付き合うことのできる関係づくりが何より大切であると考え。そして協働して学ぶことにより、自らの考えを改めたり、広めたりしながら学びを深めていく。

V 学校教育全体で取り組む活動

【非認知能力を育む活動について】

- ・「やりぬく力」(や)「自制心」(心)「自己肯定感」(肯)「社会性」(社)の4要素について、授業、行事、日常生活等あらゆる教育活動の場面で取り組む。
- ・非認知能力を育む活動には(や)(心)(肯)(社)マークをつけ、教師が意識をもって取り組ませる。
- ・新学期当初の学活でこどもたちに示し、個人の目標や学級目標づくりに反映させる。
- ・4年生以上でアンケートを実施し、教師による働きかけとこどもたちへのフィードバックを行う。
- ・ポジティブメッセージカードなどに取り組み、実践を積極的に校内で共有する。

【関わり合う活動】

- ・異学年交流活動（縦割り班活動）を通して、主体的に関わりをもとうとする力を養う。(や)(心)(肯)(社)
- ・委員会やクラブ活動など集団の一員としてよりよい学校生活づくりに積極的に参画し、自主的・実践的な態度を育てる。また、活動報告など集会で発表することを目指して取り組み、達成感を味わわせることで、関わり合う力を高める。(や)(心)(肯)(社)
- ・年1回、人権集会を実施し、中学校区の取り組みを共通理解すると共に、日頃の学級や学校で見られる課題に向き合い、どうすればよりよい学校生活を送れるかについて考える機会をもつ。(肯)
- ・外部講師やゲストティーチャー等を招いた様々な体験学習を取り入れ、興味関心・意欲を高めキャリア教育につなげる。(社)

【言葉を育む活動について】

- ・全校で、朝の会のスピーチ活動などに取り組み、スピーチの基礎的なスキルを高める。(肯)(社)

- ・作文や短日記やふりかえりカードなどを書かせることで、思いを言葉で表す力を高める。㊦㊧

【読書活動の充実について】

- ・朝読タイムを設け、読書量や語彙力を増やす。
- ・図書委員会を中心に、各学期1回程度図書館まつりを行い、読書ビンゴ・お話クイズラリー・チャレンジ読書などさまざまなジャンルの本に触れるきっかけをつくる。
- ・巡回指導員や読書週間に合わせた教師によるブックトークや読み聞かせを行ったり、高学年は、週1回「図書の日」を設けたりして、読書意欲を高める。
- ・共通学習教材と関連させて、並行読書に取り組む。

VI 年間研修計画

	時期	取 組 内 容	
一 学 期	4 / 17、18	<全国学力学習状況調査・みえスタディ・チェック実施> 【第1回全体研修会】 ・昨年度の成果と課題、今年度の方向性 【第2回全体研修会】 ・鈴峰中との合同研修会 (講師：文部科学省 GIGA StuDX 推進チーム 肥田先生) 【第3回全体研修会】 ・6年授業研究(事前研) 【第4回全体研修会】 ・6年授業研究 【第5回全体研修会】 ・鈴峰中 公開授業 【第6回全体研修会】 ・特別支援教育、第1回こどもの生活を語る会(人権研修) 【第7回全体研修会】 ・学力調査の分析と改善策(PDCA)	全国学力学習状況調査 みえスタディ・チェック 検査結果の分析
	4 / 21(月)		
	4 / 30(水)		
	6 / 9(月)		
	6 / 18(水)		
	7 / 2(月)		
	7 / 22(火)		
8 / 27(水)			
二 学 期	11 / 10(月)	【第8回全体研修会】 ・1年授業研究(事前研) 【第9回全体研修会】 ・1年授業研究 【第10回全体研修会】 ・授業実践交流	課題克服の取組 学力向上計画の作成
	11 / 19(水)		
	12 / 17(水)		
三 学 期	1 / ()	【第11回全体研修会】 ・3年授業研究(事前研) 【第12回全体研修会】 ・3年生授業研究 (助言者：山梨大学教育学部准教授 三井先生) 【第13回全体研修会】 ・第2回こどもの生活を語る会(人権研修) ・今年度の研修の反省と来年度の方向性	結果分析
	1 / 26(月)		
	3 / 4(水)		